

氏名	生熊久敬
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4257 号
学位授与の日付	平成20年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Novel Magnetic Resonance Imaging Evaluation for Valgus Instability of the Knee Caused by Medial Collateral Ligament Injury (膝内側側副靭帯損傷における膝外反不安定性の新しいMRI評価法)
論文審査委員	教授 金澤 右 教授 大塚 愛二 准教授 難波 祐三郎

学位論文内容の要旨

膝内側側副靭帯 (MCL) 損傷における膝外反不安定性の評価法に MRI 画像を使用した方法は現在までに報告がなく、我々は MRI 画像を利用したまったく新しい計測方法 (MCL instability ratio) を独自に考案した。その計測方法と臨床膝外反不安定性との関連性を検討すべく、徒手的な技法として従来から広く臨床的に使用されている Hughston and Eilers 分類との相関関係を、膝内側側副靭帯損傷を受傷した 24 例について検討した。また対照比較として近年一般的に使用されている MRI 分類の Mink and Deutsch 分類および Petermann 分類と Hughston and Eilers 分類との相関関係を検討した。Hughston and Eilers 分類と MCL instability ratio との間には統計学的相関関係を認めた ($P=0.0006$) が、Mink and Deutsch 分類および Petermann 分類ともに Hughston and Eilers 分類とは統計学的相関関係は認められなかった ($P>0.05$)。MCL instability ratio は臨床膝外反不安定性を良好に反映しうる評価法であり、治療法を選択する上で非常に有用であると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は膝内側側副靭帯損傷の膝外反不安定性の評価について従来報告のなかった MRI 画像における MCL instability ratio を用いて検証したものである。その結果、理学的所見である Houghston and Eilers 分類と MCL instability ratio は良好な相関関係があることが明らかとなり、一方従来 MRI 画像の評価に用いられてきた Mink and Deutsch 分類ならびに Petermann 分類は相関性のないことも明らかになった。Houghston and Eilers 分類が患者に侵襲製の高い負荷を加えながら行われる理学的検査であることを考えると、侵襲的ではない MRI 画像評価で膝内側側副靭帯損傷の治療指針を決定できる可能性を科学的に示した研究であり価値ある業績であると認められる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。